

T A M A B

N

E

W

S

タマビ
ニュース

2019



若手作家にチャンスな時代

作家活動を支えるセルフプロデュース力



若手作家にチャンスな時代

作家活動を支えるセルフプロデュース力

「どうして作家になれたのですか？」作家の皆さんにそう問うと

「あきらめずに続けてきた結果」「大丈夫だと自分を信じて続けているうちに、いつの間にか」などと「創作活動を続ける」ことの大切さを挙げる声が多く聞かれます。

では、なぜ「続ける」ことができたのか。その共通項には、制作環境を整え、活動の場を広げるための「セルフプロデュース」のチカラがありました。

このチカラの本質は、単にPRの技術やアピールの上手さということではなく、自分の価値や魅力を客観視し「誰に向けて作品をつくれればよいか」を把握することで、効果的な発信や行動ができるようになるということです。

現在、世界的な美術市場の活況や、若手作家を支援する動きの活性化に加え、SNSが発達したことで、以前よりさらに若手作家にチャンスな時代が到来していると言えます。また、多摩美でも作家育成の一環としてセルフプロデュース力を鍛える授業が行われています。

そうした背景で大きく羽ばたく卒業生の実像、活動を支援する側の声などを通して、作家活動を続ける秘訣に迫りました。

私が作家として、今も活動を 継続できている理由

P.4

ベストセラー小説の表紙や百貨店、美術館での個展も大きな反響を呼ぶ銅版画家 入江明日香さんの場合

右=「八月は冷たい城」著：恩田陸（講談社）
下=作品名「Les Quatre Saisons "Hiver"」



『DOMANI・明日展』ポスターに
作品が起用されるなど、新進気鋭の
アーティスト 中谷ミチコさんの場合

上=作品名「犬と女の子」 Photo:Hayato Wakabayashi
下=中谷さんの作品がメインビジュアルに起用された第20回『DOMANI・明日展』ポスター



セルフプロデュース力を 鍛える授業 P.6

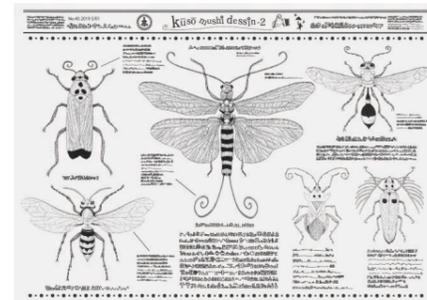
横浜現代美術館で大規模な
コレクション展を担当した
学芸員によるレクチャー



世田谷美術館学芸員のもと
「誰に向けて作品をつくるか」
を問う過程を他学科生と経験

多くの企業や団体が 取り組んでいる作家支援 P.8

実際に奨学金を受けて作家活動
を行っている学生も



熱い思いを持つ未来の
クリエイターに年額60万円
の助成金を給付 上月財団



村上隆、奈良美智を見出し、
世界に紹介したギャラリスト
小山登美夫氏に聞く
「社会や時代がアートを
必要としている」

多摩美が実施している さまざまな形での作家支援 P.10

校友会の「グループ活動助成金」を受けて活動する
「SUPER OPEN STUDIO 2019 実行委員会」

多摩美が運営するギャラリー
『アキバタマビ21』



私が作家として、今も活動を継続できている理由

若手作家として飛躍のチャンスをつかんだ二人には、情報を探る積極性や大胆な行動力といった共通項があり、そうした姿勢が活躍の場を広げる可能性を高めていました。

ベストセラー小説の表紙や百貨店、美術館での個展も大きな反響を呼ぶ銅版画家



入江明日香
銅版画家
04年大学院版画修了

Irie Asuka 2004年の『版画協会展』奨励賞受賞をはじめ、数多くの賞を受賞。2012年から1年間、文化庁新進芸術家海外研修員としてフランス(パリ)に滞在。帰国後は百貨店や美術館などで積極的に個展を開催。



『七月に流るる花』
『八月は冷たい城』著=恩田陸(講談社)

支援者との運命的な出会いが作家活動の扉を開けた

下絵を描いた紙の上に、銅版画のパーツを細かく貼っていき、水彩や油彩絵具で仕上げるなど独自のカラーージュ作品で注目を集める銅版画家の入江明日香さん。ベストセラー作家、恩田陸さんの文庫本の表紙に作品が起用されたのを機に、それまでアートに関心なかった人たちからも注目を集めている。

「展覧会のポスターにも作品を起用していただいた『第17回 DOMANI・明日展』※1で私の作品をご覧になった恩田さんのご希望から装画のお話をいただき、既存の作品から小説のイメージに合うものを選んでいただきました。そのおかげで読者層の30代くらいの女性からの反響が大きくて。私のことを調べて、若い方が展覧会に来てくださったり、SNSをフォローしていただくきっかけにもなりましたね」

大学院修了後、アトリエ探しを行う中で出会ったのが現在の制作拠点でもある『丸沼芸術の森』※2。かつて、現代美術家の村上隆さんもアトリエを構えていた場所だ。

「両親から『絶対にアルバイトをするな』と。夢をつかみたいなら、そこに100パーセントの力を注げと言われて、1年間は脛をかじらせてもらっていました。その間、作品づくりに集中して公募展に出し続け、『版画協会展』奨励賞をいただいたことがきっかけで、銀座の画廊で初個展を開くことができたんです。それを機に、『丸沼芸術の森』のオーナーをはじめ、多くの方との出会いがあり、支援を受けることができました。そういう方々との出会い、支援がなければ作家活動は続けられなかったと思います」

若手作家にチャンスが訪れる時代を予感

定期的に画廊での個展やグループ展を続けていた入江さんだったが、2012年に文化庁新進芸術家海外研修員としてパリ留学を果たす。「実際、パリへ行くまでは生活面や言葉の問題などで不安ばかりでした。でも行って良かったですね。パリの銅版画工房のディレクターや外国

のアーティストたちと交流する場がもてたので、たくさん良い刺激になりました。」

帰国後、『DOMANI・明日展』選出作品が美術展の企画を行う会社の社長に認められ、百貨店や美術館での展覧会をプロデュースしてもらえるように。その背景にあったのは、百貨店や美術館来場者の高齢化問題だった。

「初めて百貨店で個展をやらせていただいた時に担当者の方から、『社会の高齢化に伴ってお客様が減ってきているので、もっと若い人にも来店してもらいたいと思っています』とお話をいただきました。美術館の学芸員の方からも同じことを言われました。私を起用していただいた理由の一つもそこにあるのではないかと思います。現状を変えるためにも作家を育成する意味でも、今後さらに若手にチャンスや作品発表の場が広がっていくのではないかと実感しています」

※1 DOMANI・明日展…国立新美術館で1998年から毎年開催している展覧会。文化庁の海外研修支援「新進芸術家海外研修制度(在研)」に選出された若手芸術家が、帰国後に成果発表を行う機会となっている。
※2 丸沼芸術の森…株式会社丸沼倉庫代表取締役社長の須崎勝茂さんが、若いアーティストの支援を目的に1980年代前半に設立。現在、ジャンルを超えた10数名の芸術家がアトリエを借り、作品制作を行っている。



「江戸淡墨大板」

『DOMANI・明日展』ポスターに作品が起用されるなど、新進気鋭のアーティスト



中谷ミチコ
彫刻学科専任講師
05年彫刻卒業

Nakatani Michiko 彫刻家。大学卒業後、自費でドイツのドレスデン美術大学に留学。2012年、文化庁新進芸術家海外研修員としてドレスデン造形芸術大学院に留学。2014年、同校のマイスターシューラー・ストゥディウム修了。2019年より彫刻学科専任講師に就任。

自分が目指すことを応援してくれる研究室や先輩、同級生の存在があった

凹状に掘り沈めた石膏に透明樹脂を流し込んだ半立体のレリーフ作品シリーズの代表作が、『DOMANI・明日展』のポスタービジュアルにも起用されるなど、活躍中の彫刻家、中谷ミチコさん。現在は彫刻学科専任講師として学生の指導にあたりながら作家活動を行っている。そんな中谷さんが作家としての道を切り開いていったきっかけは多摩美で出会った人のつながりをたどっていくことで生まれた大胆な行動力だった。「本気で留学を考えたのは大学卒業直後でした。学生時代には割と古典的な彫刻作品を作っていて『このままじゃダメだ』という思いがあり、一度自分をゼロにしたかったです。全く知らない土地、知らない言葉の中で生活したなら自分にどんな変化が起こるだろうかと。向かった先はドイツのハイデルベルクでした」

最初は美術大学ではなく、自分で探した語学学校に入学。もんもんとする日々の中、留学前に彫刻学科研究室の助手から「ドイツへ行くなら開発好明さん(現、版画・彫刻・メディア芸術

非常勤講師)に会いに行くといいよ」と言われたことを思い出したという。「すぐに開発さんに連絡したところ『遊びにおいでよ』と軽く言われて(笑)。ベルリンまで会いに行き、彫刻をやりたいと話したら、ドレスデン美術大学を卒業した友人を紹介されて。さらに、大学を案内されている時に偶然出会い、作品を見せた相手が、後に恩師となる彫刻家のマーティン・ホナート先生だったんです」

思い切ったドイツ留学が作家としての可能性に光を当てた

「自分が何者になるのかも分からない状態で行った最初の留学では、ホナート先生から自分の作品に全く違う方向から光が当てられているような感覚を受けました」という中谷さん。5年間の留学を経て一時帰国した2010年に『VOCA展』※3で奨励賞を受賞。2011年には横浜美術館アートギャラリー1にて個展を開催。2012年に再び文化庁新進芸術家海外研修制



『未来を担う美術家たち 20th DOMANI・明日展 文化庁新進芸術家海外研修制度の成果』ポスター

度を利用して、ドレスデン造形芸術大学大学院への留学を果たす。帰国後、祖父が住んでいた三重県津市の家をアトリエに改築し、積極的な制作活動を展開。

「とにかく、どうしたら作品を作り続けられるかだけを考えていました。でも作品を置く場所やアトリエを構えることを考えた時、東京では無理だと。いまもそうなのですが、とにかく振れるサイコロは振る。常に自分を揺り動かして変化を求めている感覚はありますね。必死に藁をもつかむ思いで行動しているうちに、なぜか人や場所との不思議な出会いに恵まれる。その連続で、いまがある気がします」

旺盛な行動力と好奇心が自分に多大な影響を与える人物との出会いを生んだ。そして今年からは教員という立場で、これまでに培った経験を後輩たちに伝えていこうとしている。

※3 VOCA展…上野の森美術館で1994年から毎年開催している展覧会。全国の美術館学芸員、ジャーナリスト、研究者などに40才以下の若手作家の推薦を依頼し、その推薦に基づき、作家が平面作品の新作を出品するという方式で、全国各地から未知の優れた才能を紹介している。本学からもこれまでに多くの受賞者を輩出している。



左=『その小さな宇宙に立つ人』三重県立美術館柳原義達記念館でのインスタレーションビュー | 2019
Photo: Hayato Wakabayashi
右=左の作品『あの山にカラスがいる』/『Crows live in that mountain』の部分画像

セルフプロデュース力を鍛える授業

多摩美では各学科や研究室が、さまざまなアプローチからセルフプロデュース力を育成するための授業を実施しています。ここでは、その一部をご紹介します。

世田谷美術館学芸員のもと「誰に向けて作品をつくるか」を問う過程を他学科生と経験



PBL* (全学科対象)
野田尚稔
芸術学科非常勤講師
95年大学院芸術修了

Noda Naotoshi 学芸員。世田谷美術館 学芸部 企画担当主査。95年に大学院芸術修了後、サントリー美術館、草月美術館の学芸員を経て、2003年から世田谷美術館の学芸員として勤務。2013年より芸術学科非常勤講師。



2018年の「アーティスト・トーク」の様子

展覧会の企画から実施、運営までを学生たちが自ら行う授業

全学科生が受講可能なPBL授業※『文化演出の現在』。普段はさまざまな学科で学んでいる学生たちが全員で、企画立案から印刷物の作成、広報活動や作品設置の方法などを考え、展覧会を実施する実践的な授業です。

この授業を担当しているのは世田谷美術館の学芸員でもある野田尚稔先生。展覧会を開くことが目的ではなく、『自分の作品は、こう見せる』というセルフプロデュース力の本質を身に付けてもらうことに力を注いでいるという。「前期15週の授業の中で展覧会を実施するところまでを指導するのですが、そこで終わりではありません。報告書を作るまでが授業なんです。報告書には、どのぐらい費用がかかったのかという明細付きの会計報告も添付します。奨学金を受けるにしても留学するにしても、最後は自分で報告書を書いて提出しなければいけない。大

学を卒業したなら、もう相談する相手がないわけです。個展を開くにしても、基本的に全て自分一人でやらなければいけないんですよ。そんなことを教えてくれる人はいません。普通は大学でも教えませんからね(笑)」

「あなたは一体何者ですか?」を自らに問う授業を展開

後期では『プレゼンテーション演習』の授業が行われる。名称通りに受け取るのなら、プレゼンテーションのノウハウを学び、スキルを身に付ける授業に思えるが、野田先生の授業はそうではないという。「授業名と授業内容にはギャップがあるかもしれないですね。『あなたは一体何者ですか?』を主題にした授業を行っているのです。どうやって自分を見せるかを考えるにしても、まず自分が何者か分からなければ見ようがない。でも、行うのはいわゆる自分探してはいいんです。例えば、自分の好きな美術作家を3人挙げて、共通点は何かを考える。おそらく、その共通点の延長線上にあるものが自分の好きなものだよ。そこから3人のラインと自分がどう関係しているのか、自分の作品の主要な部分とどうつながっているかを考えながら、自分自身のことを言葉で説明する訓練を行い、ポートフォリオを作ってもらいます。他の学生が作ったポートフォリオと自分のポートフォリオを見比べて、違いは何

か? 自分の作ったものが見劣りする理由があれば、それはなぜかを考えさせています」ここまでで後期全15回の授業の半分。残りの授業では、ポートフォリオをベースにしながら自分の作品を使い、『アーティストブック』と呼ばれる本作りを行うという。「作品は物でポートフォリオはその人の情報でしかないんですが、作品よりもポートフォリオのほうが、よりその人を表現しているケースもあるんです。では、物体と情報の差は何かを考えていくと、そこに自分の作品の大事な部分が見えてくるはずなんです」

自分の内に持つテーマと作品を客観視し、他者に説明するための言葉を見つける。これぞプレゼンテーションの本質に迫り、セルフプロデュースの方向性をつかむ授業という印象を受ける。「そうだと良いんですが(笑)。学生にしてみれば初めての体験ですし、もともと言葉を使うのに慣れていないので、最初から上手くはできないんですよ。しかも、どんどん授業が進むので、完成度を求めるのは正直難しいところではあります。ですので、まずはセルフプロデュース力を身に付けるために何をやるべきか、ということを理解してもらえればと思っています。僕が行っているのはプラモデルの設計図のように、完成までの順序を教える授業ではないんです。あくまでも自分で考えさせる。自分で考えれば、次に考える時の糧になるはずだと思うのです」

2019年は日本画、油画、グラフィックデザイン、工芸、芸術学科の学生が受講。



※PBL授業…PBL(Project Based Learning)。所属学科や学年の枠を超えて、横断的研究や社会的課題に取り組むプロジェクト型授業のこと。

各学科では、作家活動に必要な知見や実践経験を培う目的で特色ある授業を実施し、学生のセルフプロデュース力向上をバックアップしています。

日本画

佐藤美術館にて学生主体のグループ展
大学院2年生を対象に、学生が企画、広報、設営など全ての課程を行い、作家活動の力を養うための授業。
一般の方々や学芸員、評論家などに観てもらうことも目的としている。会場は東京都新宿区にある「佐藤美術館」。

その他

- ◎特別講義
北澤憲昭客員教授(美術評論家/美術史家)
小金沢智さん(太田市美術館・図書館 学芸員)
- ◎校外学習
…美術館見学、和紙専門店見学など

工芸

国内外のアーティストやディレクター、学芸員やギャラリストなどによる特別講義
第一線で活躍する方々の幅広い視野を見聞する機会を作るため、各学年、年数回実施。講師は、ガラス作家、ディレクター、ギャラリスト、哲学者、写真家、建築家など。

学外展、学内展

主に3年生、4年生、大学院生を対象に、優秀選抜者などによる学外展示を毎年実施。会場・搬入費やDM印刷費、その他の費用を全面支援。
また、大学院生を対象に年に数回、工芸棟ギャラリーでの個展を自主企画させ、DMやカタログの印刷費を支援する。

油画

蔵屋ゼミ

3年生が対象。東京国立近代美術館企画課長である非常勤講師の蔵屋美香先生による授業。現代美術についての講義を中心に、展覧会見学や教員・助手の作品についてディスカッションを行い、学生の将来的なイメージを形成することを目的としている。

ホール展

3年生、4年生が対象。学内ギャラリーを使用し、学生主体で展示を行うだけではなく、キャプションやポスター等、展示に関わることの学習にもつながっている。

特別講義

横浜現代美術館で大規模なコレクション展「Meet the Collection」を担当した大澤紗蓉子さん(横浜美術館学芸員/08年大学院芸術修了)によるレクチャーと展覧会鑑賞。



版画

アートブック研究

3年生、4年生の自由選択科目。版画において深められた自身の表現を「本」という形式で展開し、出版、流通を前提にした印刷表現としての「本」の可能性を探る授業。
今年この授業で制作した本は7月12～15日、東京都現代美術館で開催された『TOKYO ART BOOK FAIR 2019』に出品され、国内外の出版社、ギャラリー、アーティストら約300組の中で自分の本がどう評価されるかを知る、貴重な実践の場となった。

その他

- ◎版画メディア論
…作家、デザイナーを講師に招き、版画制作をどのように他領域に接続したか学ぶ。
- ◎特別講義
清水穰客員教授(美術評論家)
…美術評論家の視点から作品の指導を受ける。



『TOKYO ART BOOK FAIR 2019』会場での作品展示の様子。

大学院まで含めて、作家としての巣立ちを支援

彫刻

水上嘉久

彫刻学科 学科長 / 85年大学院彫刻修了



Mizukami Yoshihisa 熊本県出身。1992年「ORC200街をかざる彫刻コンクール」大賞受賞。1987年 明日への造形・九州7回展「イメージの突然変異、浮遊と中断」、1988年「画界芸術・88年の位相展」、2004年「第19回平行芸術展」、2005年「第21回現代日本彫刻展(招待出品)」、2007年「第5回アートプログラム青梅(以後、7～10回展)」など出展多数。2011年より多摩美術大学彫刻学科教授。

作家活動に必要なセルフプロデュース力を育成するために、彫刻学科として取り組んでいる内容について水上嘉久教授に伺いました。「内容的には、『彫刻学科企画展』と『彫刻学科大学院選抜展』が、より実践的でセルフプロデュース力の育成と言える授業かと思います。また、台湾芸大の彫刻科の教員との人脈から、現地で開催される作品展に多摩美の学生の作品を出品したり、実際に台湾へ連れて行くこともしています。ただ、大学院生が対象となるので、大学4年間の学びの中だけで実践力を磨くのは難しい状況なのは確か

です。大学院までの6年間を一つのセットと考えていただき、作家としてのキャリアの扉を開いていただけるといいですね」



企画展での作家によるトークイベントの模様。

多くの企業や団体が取り組んでいる 作家支援

企業や団体が社会貢献活動の一環として、これから世に出ようとしている作家やクリエイターに助成金や奨学金を給付したり、海外留学をバックアップするなどの支援を行っている例は国内外に多数あります。こうした取り組みを行っている財団と、実際に支援を受けて活発な作家活動につなげている学生を取材しました。

一般財団法人 上月財団

熱い思いを持つ未来のクリエイターに年額60万円の助成金を給付

東尾公彦 専務理事(コナミホールディングス 副社長)

Higashio Kimihiko 一般財団法人 上月財団の専務理事であり、コナミホールディングス株式会社 代表取締役副社長を務める。



毎年約30名の若きクリエイターたちに門戸を開いている

文化の振興と発展、人材育成を目的に社会貢献活動として、作家を目指す人たちに助成金や奨学金を給付するなどして活動を支援している財団があります。その一例として、コナミホールディングス株式会社の株式の配当金によって運営されている上月財団(理事長＝上月景正)が行なっている取り組みについて、専務理事の東尾公彦さんにお話をうかがいました。

「2004年に支援事業をスタートさせた当初は『漫画家育成事業』という名称だったのですが、名称を『クリエイター育成事業』に変更しました。現在は、デジタルアーティスト、イラストレーター、漫画家、画家などを目指す未

来のクリエイターたちに門戸を開き、支援させていただいています」

例年200名を超える応募がある中、二次選考を通過した約30名に月額5万円の助成金を1年間にわたって給付するという。また、二次選考では一次通過者が会場で一同に会い、当日発表されたテーマに沿って、その場で作品を制作する実技審査と面接に臨む。この面接もクリエイターを目指す人にとって貴重な体験になるはずと言う。

「助成対象に選出されなくても、面接を通して著名な先生方から作品に対するアドバイスや、参考になるお話を聞くことができます。多面的で多様な意見を聞けるのは非常に良い機会になっているのではないかと思います」

自らチャンスをつかみにいく 行動力ある人材を支援します

できるだけ多くの人にチャンスをあげたい。そのためにも、より多くの人からの応募を求めていると東尾専務理事は言う。

「今、私どもの支援事業を認知している学校だけではなく、もっと多くの方々に応募いただきたいと考えています。せっかく才能がありながら経済的な理由などで活動が行き詰まったり、埋もれてしまっている人材がたくさんいると思うんですよ。そういう才能に光を当てて支援することに育成事業の意義がある。ですから、多摩美の学生さんにもどんどん応募いただきたいですね。チャンスはいっぱいあるのだから自らつかみにいていただきたい。私たちが応援します」

代表的な支援団体(一部)

多くの学生、卒業生がさまざまな支援を受けながら作家としての扉を開き、飛躍を遂げています。

公益財団法人クマ財団

株式会社コロプラ代表、馬場功淳が設立した「クマ財団」は、クリエイターを目指す25歳以下の「学生」の活動支援を目的とした、返済義務のない給付型奨学金を給付。募集人員は最大50名、年間給付額は120万円(月額10万円)。奨学生同士の交流会や、作品発表の場の提供といったサポートも実施している。

公益財団法人 ポーラ美術振興財団

ポーラ・オルビスグループが、美と文化への貢献を目的に設立。助成事業の一つとして「若手芸術家の在外研修助成」を実施。絵画、彫刻、工芸などの創作を行っている者(20歳以上35歳以下)を対象に、12ヶ月で340万円以内の助成金を給付。助成予定件数は、毎年18名程度となっている。

文化庁新進芸術家海外研修制度

美術、音楽、舞踊、演劇、映画、舞台美術などのメディア芸術に携わる新進芸術家を対象に、海外の大学や芸術団体などへの実践的な研修機会を提供。研修期間は、1年・2年・3年・特別(80日間)・短期(20～40日)及び高校生(350日)の6種類。2017年度末までに約3,500名が研修を体験している。

シェル美術賞

出光興産株式会社(出光昭和シェル)が1956年から実施している、次世代を担う若手作家のための現代美術の公募展。「若手作家の登竜門」として知られ、グランプリには賞金100万円が授与される。学生支援企画のほか、2018年からは過去の受賞・入賞作家を対象にバリのレジデンス施設で、2ヶ月間の制作活動を支援する「レジデンス支援プログラム」も実施。2019年は13年油画卒業・武田竜真さん(シェル美術賞2011、2012入選)が対象作家として選出された。(詳細はP15に掲載)

国際瀧富士美術賞

公益財団法人 日本交通文化協会が、1980年から実施している育英事業。パブリックアートの振興と普及を進めている同協会が若手芸術家の育成を目的に、将来を嘱望される日本と外国の美術系大学の学生に奨学金を給付。現在、国内13校(多摩美術大学を含む)、海外7カ国の美術系大学が対象となっている。募集人数は20名程度。奨学金30万円は授賞式にて一括給付される。グランプリ、国際グランプリ、優秀賞、特別賞が設けられている。

村上隆、奈良美智を見出し、世界に紹介したギャラリストに聞く

「社会や時代が アートを必要としている」

小山登美夫ギャラリー 代表取締役 小山登美夫

Koyama Tomio 東京藝術大学芸術学科卒業。西村画廊、白石コンテンポラリーアート勤務を経て、1996年に小山登美夫ギャラリーを開業。日本のアートシーンを牽引するギャラリスト。日本現代美術商協会代表理事。



これから若手作家にとって 良い時代

若手作家の発掘と育成を目的とする現代美術の展覧会『アートアワードトーキョー 丸の内』の審査員も務め、将来有望な若手作家や作品に触れる機会も多い小山さん。若手作家たちにとって、今ほどのような時代だと感じているのだろうか。「美大の卒業生や修了生の作品を対象にした『アートアワードトーキョー』もそうですが、若いアーティストの作品が人の目に触れる機会は増えていきますし、アート作品を販売するWEBサイトも登場しています。また、『アーティスト・ラン・ス

ペース』と呼ばれる若手アーティストが自主運営する展示スペースも増えている。昔に比べたら美術市場に関わる場所や機会は格段に増えていると思います。今はSNSのように簡単に自分たちの活動を広めるためのツールもある。個々のアーティストがどう成長していくか、どんなキャリアを積んでいくかは次の問題ですが、自分の作品を世に問う、いちばん初めのきっかけは間違いなく増えている。豊かな時代になっていると思いますね」

3年に一度、瀬戸内海の島々で開催される現代アートの祭典『瀬戸内国際芸術祭』や、現代アートの国際展『横浜トリエンナーレ』などのアート・イベントが活況

を呈している。この状況を小山さんは、どう捉えているのだろうか。「社会がアートを求めている。今の時代がアートを必要としているのだと思うんですよ。イベントの方向でアートを使ったり、そのイベントによって街を変えていくとか。アートというものの意味を、みんなに体験してもらおう動きが始まったのはすごいことだと思います。また、中国や香港、台湾といったアジアのアート・マーケットが活発化している状況は、日本のアーティストにとっても良い動きだと思います。誰も彼もとはいきませんが、これからアーティストを目指す人にとって良い時代になってきましたね」

実際に奨学金を受けて作家活動を行っている学生も

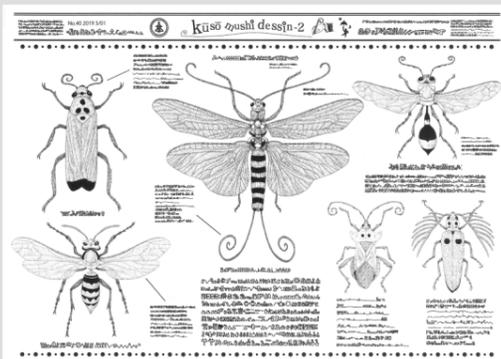
上月財団とクマ財団の奨学生になり 制作環境が充実

現在、油画大学院1年に在学中で、すでに多数の受賞経験を持つ、しろこまたおさん。上月財団やクマ財団からの奨学金を受け、作家活動を行なっているという。

「版画用紙の購入や、機材の整備など制作環境の充実に役立っています。奨学金の活用は、制作の質の向上につながると思います」

右の作品は、しろこまさんが上月財団の「第16回クリエイター育成事業」選考時に提出したもの。

左=[kuso mushi dedessin] 右=[yuki no hi-2]



多摩美が実施しているさまざまな形での作家支援

展示スペースの運営やキャリア支援イベントの開催、校友会による資金援助などを通じて、学生・卒業生の作家活動をサポートしています。ここでは、その一例をご紹介します。

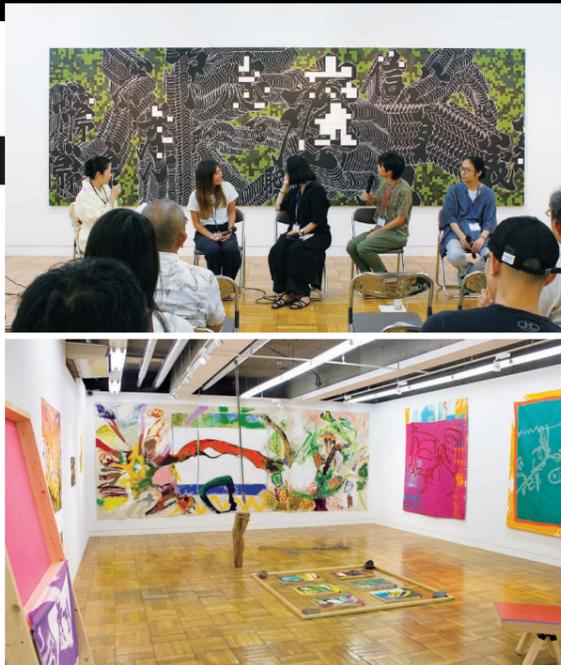
多摩美が運営するギャラリー『アキバタマビ21』

作家が自らをプロデュースする、新しい表現の場

2010年、東京都千代田区のアートセンター「3331 Arts Chiyoda」の2階にオープンした『アキバタマビ21』。卒業生の作家活動を支援するスペースとして多摩美が運営する作品発表の場です。「既存のシステムや権威に依存することなく自らをプロデュースし自立していくための、鍛錬の場」をコンセプトに、作家による自己プロデュースを基本としたグループ展を年8回開催しています。テーマはそれぞれの作家たちに委ねているため、作品のジャンルも違えば個性も世界観も、もちろん展示方法も異なり、会場の雰囲気も毎回大きく様変わりするのも特徴です。

なお、出展の基本的な条件は、40歳以下の卒業生を中心とすること、4名以上のグループ展とすること、広報物・アーカイブの作成を行うこと、展覧会の意図を言葉で振り返るために、作家・批評家などゲストを招いてシンポジウムやトークショーを行うことなどです。

出展に際しては運営委員が企画書をもとに実施の可否を検討し、採用された企画の実施に展覧会運営費を支給。非営利スペースのため作品販売は行いませんが、だからこそ新しい価値を世に問うような企画に挑戦できる場となっています。 (※P16に開催中の展覧会情報を掲載しています。)



上=第78回展「絵画たらしめる」トークイベントの様子。下=第77回展「転回する与太話」展示風景。

現在、2020年度の展覧会企画を募集中です。応募締切は12月10日(火)。興味のある方はぜひ『アキバタマビ21』のウェブサイトを確認の上、お問い合わせください。 www.akibatamabi21.com



キャリア支援イベント

レクチャーシリーズ01『アーティスト・キャリアをつくる』開催

『アキバタマビ21』では、自分が目指すシーンでアーティスト活動をしていくためのレクチャーシリーズを2019年からスタートしました。5月27日には、『Day 1: Artist-led Practice アーティスト主導の活動はどんな風に大切?』と題し、イギリスのリサーチャーと日本のアーティストによる座談会形式のレクチャーを実施。自ら展示スペースの運営などを行っているアーティストの実践例を伺い、作品を発表する場を自らつくるような活動の意義について考えました。また、6月9日に実施された『Day 2: アーティスト・イン・レジデンスとアート・マーケットの実際』では、滞在制作の多様なあり方と、現在のアート・マーケットに関する興味深いトークが展開され、若手作家や作家志望の学生らが耳を傾けていました。



国立新美術館で行われる『五美大展』※東京五美術大学連合卒業・修了制作展

卒業制作が美術業界関係者の目に触れる機会を創出

『五美大展』とは、東京の五美術大学(多摩美術大学・女子美術大学・東京造形大学・日本大学芸術学部・武蔵野美術大学)が連合で行う美術系学科による卒業・修了制作展。毎年、東京・六本木の国立新美術館で開催され、一般来場者だけでなく、学芸員やギャラリスト、アワード審査員など、多くの美術業界関係者が訪れるため、卒業生にとってはチャンスとも言える機会です。また、2019年は本学の建島哲学長が『職業としての芸術』と題した講演を行いました。講演では作家として世に出る方法にも触れ、「近年は企画だけを行う商業画廊が台頭する傾向にあり、大学の卒業制作展から直接学生をピックアップする方法が変わってきている」と解説。これまでの公募団体展や貸し画廊から作家活動をスタートさせる形が変わってきた潮流を紹介しました。



講演を行った建島哲学長(右)と、五美大出身の若手アーティストによるトークセッションに登壇した三輪彩音さん(17年大学院日本画修了)。



校友会による支援

卒業生のグループ活動を支援する「グループ活動助成金」

多摩美術大学校友会では、卒業後も意欲的に芸術活動に取り組んでいる卒業生グループを支援するため、「グループ活動助成金」プログラムを実施しています。対象となるのは、卒業生が5名以上所属するグループ(代表は校友会正会員に限る)で、広く社会に向けて「芸術文化の発展に寄与する」活動・企画に対してとなります。助成金額はグループに所属する正会員の人数で算出され、1グループ当たりの上限は15万円。申請方法など詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。 www.tamabi-alt.com/infomation/subsidy

校友会の「グループ活動助成金」を受けて活動する「SUPER OPEN STUDIO 2019 実行委員会」

20を超える作家グループによる、制作スタジオを会場にしたイベント

相模原市、町田市、八王子市には、多摩美をはじめとする美大卒業生らの制作スタジオが複数点在している。そうしたスタジオを一般に公開し、直接見て回ることができるアート・プロジェクト『SUPER OPEN STUDIO』。2013年から続くこのプロジェクトは、20を超えるスタジオと100名を超える作家が参加し、今ではバスツアーの予約が困難になるほど人気を集めている。このイベントに毎年「グループ活動助成金」が活用されている。「どうやったら制作のモチベーションを保てるか、自分の表現の場所を見つけられるかを考えた時に、原点がスタジオだったので、じゃあスタジオに人がやって来て、作品を見て「面白い」と言ってもらえるようなことをすれば良いのではない

卒業生から学生への奨学金基金にもなる「チャリティ展」

多摩美卒業生から出品を募り、毎年12月に開催する小作品のチャリティ展覧会。販売した作品は、その販売額の半分を画料として出品者に、半分を「奨学金基金」と「芸術・文化による災害復興支援への寄付」に充てます。詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。 www.tamabi-alt.com/archives/5283

卒業生の個展開催を応援「個展バックアップ賞」(チャリティ展内)

チャリティ展への出品者を対象に、個展開催の応援を目的として設けられた賞です。チャリティ展来場者の投票をもとに受賞者を決定し、受賞者にはDMの印刷・郵送料として賞金5万円を授与します。

か。この地で何か思い切ったことをやればいいのか、そう考えたんです」と語るのは、第一回から発起人として参加している井出賢嗣さん。今年は10月12日(土)～11月4日(月)に開催。詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。 www.superopenstudio.net



「SUPER OPEN STUDIO 2019 実行委員会」メンバー。左から、井出賢嗣さん(06年大学院油画修了)、相模原市が運営する「アトラボはしもと」職員の中尾拓哉さん(15年大学院博士後期修了)、水上愛美さん(17年油画卒業)。



返還不要の多摩美独自の奨学金

授業料減免制度も含めると年間総額1億5,000万円以上、延べ1,000名の修学をサポート(2019年度参考)

ワークスタディ奨学金 …… 24万円	創立80周年記念奨学金 …… 30万円	大学院学修奨励制度研究発表活動奨励金 … 10万円
学業成績優秀者奨学金 …… 20万円	多摩美術大学校友会奨学金 … 20万円	博士後課程課程研究活動奨励奨励金 …… 40万円
交換留学生奨学金 …… 20万円	特別優秀顕彰奨学金 …… 10万円	

申請には条件があります。詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。 www.tamabi.ac.jp/admission/scholarship/original.htm



20を超える学内ギャラリー

学内ギャラリーを活用し、助手たちによる展覧会を開催

2019年7月、『タマビ助手展 2019 [poly-]』が、八王子キャンパス内にあるギャラリー、アートテークにて開催されました。会期中は一般来場者のほか多くの学生が訪れ、若手作家として活躍する助手と学生との貴重な交流の場となっていました(詳細はP15に掲載)。

学内には八王子キャンパス、上野毛キャンパス合わせて20のギャラリーを有しており、この『助手展』のような企画展示はもちろん、各学科主催の作品展示も年間を通じて行われています。こうした設備は、まさにセルフプロデュース力を実践的に鍛える場として機能しています。

タマビ助手展 2019 [poly-]の様子。アートテークのスペース全体を利用して作品を展示。ジャンルの枠を超えて、バラエティーに富んだ作品が集まるユニークな展覧会となった。



学校法人多摩美術大学平成30年度会計報告

1. 資金収支計算 [資金収支計算総括表] 資金収支計算について、その主な内容を報告します。

自平成30年4月1日
至平成31年3月31日

収入の部				(単位：千円)
科目	予算	決算	差異	
学生生徒等納付金収入	7,601,060	7,689,009	△87,949	①
手数料収入	192,950	212,889	△19,939	
寄付金収入	850	4,398	△3,548	②
補助金収入	555,400	556,528	△1,128	③
(うち、国庫補助金収入)	(555,000)	(556,095)	(△1,095)	
(// 地方公共団体補助金収入)	(400)	(433)	(△33)	
資産売却収入	500,150	500,150	0	④
付随事業・収益事業収入	28,950	34,702	△5,752	⑤
受取利息・配当金収入	46,900	64,260	△17,360	⑥
雑収入	317,500	337,794	△20,294	
借入金等収入	0	0	0	
前受金収入	3,403,910	3,882,591	△478,681	
その他の収入	318,166	377,663	△59,497	
資金収入調整勘定	△4,117,073	△4,192,938	75,865	
当年度資金収入合計(A)	8,848,763	9,467,046	△618,283	
前年度繰越支払資金	14,553,358	14,553,358	—	
収入の部合計	23,402,121	24,020,404	△618,283	

- ①大学院の定員充足等により予算額を上回りました。補助額は学校配分が下がり減少しました。
 ②多摩美サポーター募金の開始等により予算額を上回りました。補助額は学校配分が下がり減少しました。
 ③私立大学経常費補助金5億5,609万円、うち特別補助6,055万円(社会人の組織的受入117万円、国際交流の基盤整備2,049万円、大学院等の機能高度化1,417万円、授業料減免及び学生の経済的支援2,422万円、平成30年7月豪雨等からの復興支援50万円)の交付がありました。前年度より特別補助額は増加しましたが、一般

支出の部				(単位：千円)
科目	予算	決算	差異	
人件費支出	4,241,198	4,103,155	138,043	⑦
教育研究経費支出	2,068,279	1,829,441	238,838	⑧
管理経費支出	403,300	335,287	68,013	
借入金等利息支出	1,150	1,114	36	
借入金等返済支出	54,720	54,720	0	
施設関係支出	330,350	93,594	236,756	⑨
設備関係支出	516,000	356,004	159,996	
資産運用支出	1,609,870	1,609,833	37	⑩
その他の支出	400,315	384,916	15,399	
予備費	373,400	—	373,400	
資金支出調整勘定	△327,523	△304,941	△22,582	
当年度資金支出合計(B)	9,671,059	8,463,123	1,207,936	
翌年度繰越支払資金	13,731,062	15,557,281	△1,826,219	⑪
支出の部合計	23,402,121	24,020,404	△618,283	

当年度資金収支差額(A)-(B)	△822,296	1,003,923	△1,826,219
------------------	----------	-----------	------------

- ⑦退職金は前年度より増加しましたが、他の人件費が抑えられ予算額を下回りました。
 ⑧光熱水費、奨学費、印刷費、修繕費、新聞雑誌費、支払報酬手数料等が昨年度決算額よりも増加しましたが、消耗品費や旅費交通費、賞給費等の減少もあり全体としては予算額を下回りました。
 ⑨八王子キャンパス…レクチャーホール、テキスタイル棟、彫刻棟のトイレ改修、売店改修工事、CAD室改修工事、絵画北棟パーテーション設置工事他。
 ⑩上記により翌年度繰越支払資金が予算額対比、前年度決算額対比で増加しました。

2. 事業活動収支計算 [事業活動収支計算総括表] 事業活動収支計算について、その主な内容を報告します。

教育活動収支				(単位：千円)
科目	予算	決算	差異	
学生生徒等納付金	7,601,060	7,689,009	△87,949	
手数料	192,950	212,889	△19,939	
寄付金	850	2,715	△1,865	
経常費等補助金	555,400	556,528	△1,128	
付随事業収入	28,950	34,702	△5,752	
雑収入	313,000	333,583	△20,583	①
教育活動収入計	8,692,210	8,829,426	△137,216	
人件費	4,241,298	4,072,709	168,589	②
教育研究経費	3,398,279	3,089,938	308,341	③
(うち、減価償却額)	(1,330,000)	(1,260,497)	(69,503)	
管理経費	489,350	421,296	68,054	
(うち、減価償却額)	(86,900)	(86,858)	(42)	
徴収不能額	0	0	0	
教育活動支出計	8,128,927	7,583,943	544,984	
教育活動収支差額	563,283	1,245,483	△682,200	

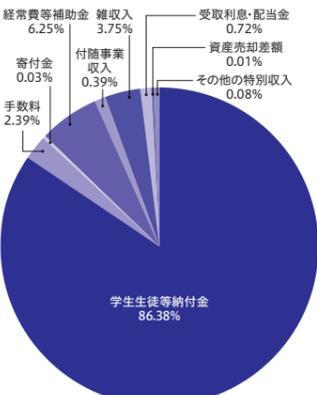
教育活動外収支				(単位：千円)
科目	予算	決算	差異	
受取利息・配当金	46,900	64,260	△17,360	
その他の教育活動外収入	0	0	0	
教育活動外収入計	46,900	64,260	△17,360	
借入金等利息	1,150	1,114	36	
その他の教育活動外支出	0	0	0	
教育活動外支出計	1,150	1,114	36	
教育活動外収支差額	45,750	63,146	△17,396	
経常収支差額	609,033	1,308,629	△699,596	

- ①退職金財団からの交付金、科学研究費補助金間接経費等により予算を上回りました。
 ②退職給与引当金は増加しましたが、予算を下回りました。
 ③減価償却額の減少により、全体額は予算を下回りました。
 ④顔面以下の価格で購入し運用していた債券(利付国債、財投機関債)の満期償還による額面と購入額の差額及び車両の売却です。
 ⑤科学研究費補助金から購入された教育研究用機器備品7点、133万円相当額の寄贈等がありました。
 ⑥図書汚損・紛失・除籍により39万円、美術参考品の入替えにより32万円の処分差額が発生し

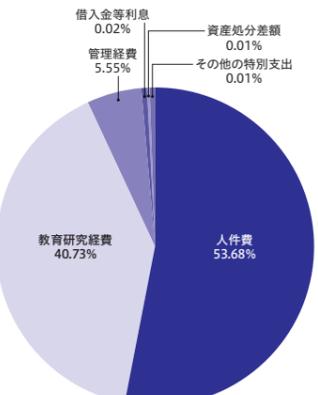
特別収支				(単位：千円)
科目	予算	決算	差異	
資産売却差額	549	549	0	④
その他の特別収入	6,500	7,233	△733	⑤
特別収入計	7,049	7,782	△733	
資産処分差額	5,350	717	4,633	⑥
その他の特別支出	850	849	1	
特別支出計	6,200	1,566	4,634	
特別収支差額	849	6,216	△5,367	
[予備費]	383,900	—	383,900	
基本金組入前当年度収支差額比率 ^(注)	2.6%	14.8%	—	
基本金組入前当年度収支差額	225,982	1,314,845	△1,088,863	
基本金組入額合計	△314,798	△533	△314,265	
当年度収支差額	△88,816	1,314,312	△1,403,128	
前年度繰越収支差額	△3,399,525	△3,399,525	0	
基本金取崩額	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△3,488,341	△2,085,213	△1,403,128	⑦
事業活動収入計	8,746,159	8,901,468	△155,309	
事業活動支出計	8,520,177	7,586,623	933,554	

注：基本金組入前当年度収支差額比率＝基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入計×100

事業活動収入(89億円)の構成比率



事業活動支出(75.8億円)の構成比率



3. 貸借対照表(兼財産目録) 貸借対照表について、前年度からの増減を報告します。

平成31年3月31日

資産の部				(単位：千円)
科目	本年度末	前年度末	増減	
固定資産	(55,273,964)	(55,200,679)	(73,285)	
有形固定資産	(34,975,920)	(35,928,236)	(△952,316)	
土地(198,947.99㎡)	14,275,479	14,275,479	0	
建物(110,808.97㎡)	14,654,194	15,411,498	△757,304	①
構築物(352件)	2,106,614	2,301,073	△194,459	
教育研究用機器備品(11,859点)	1,094,106	1,138,325	△44,219	②
管理用機器備品(440点)	34,770	35,625	△855	
図書(214,076冊)	1,418,522	1,383,241	35,281	
美術参考品(7,747点)	1,328,638	1,325,958	2,680	③
美術参考資料(365種)	58,191	53,191	5,000	
車両(9台)	5,086	3,846	1,240	
建設仮勘定(1件)	320	0	320	
特定資産	(17,726,921)	(16,763,874)	(963,047)	④
第2号基本金引当特定資産	7,019,624	7,019,624	0	
第3号基本金引当特定資産	372,613	372,080	533	
減価償却引当特定資産	8,300,000	7,300,000	1,000,000	
退職給与引当特定資産	1,949,124	1,979,570	△30,446	
多摩美術大学創立80周年記念奨学基金引当特定資産	85,560	92,600	△7,040	
その他の固定資産	(2,571,123)	(2,508,569)	(62,554)	
電話加入権(38台)	2,273	2,273	0	
ソフトウェア(5件)	58,404	3,223	55,181	
有価証券	2,508,971	2,501,531	7,440	
うち、(1)利付国債	809,163	902,079	△92,916	
(2)財投機関債	499,808	199,694	300,114	
(3)銀行債	900,000	699,758	200,242	
(4)事業債	300,000	700,000	△400,000	
差入保証金	1,266	1,256	10	
長期貸付金	209	286	△77	
流動資産	(15,917,433)	(14,818,478)	(1,098,955)	⑤
現金預金	15,557,281	14,553,358	1,003,923	
未収入金	302,886	206,797	96,089	
前払金	56,848	57,523	△675	
立替金	418	800	△382	
資産の部合計	71,191,397	70,019,157	1,172,240	

負債の部				(単位：千円)
科目	本年度末	前年度末	増減	
固定負債	(1,949,124)	(1,979,570)	(△30,446)	⑥
退職給与引当金	1,949,124	1,979,570	△30,446	
流動負債	(4,419,327)	(4,531,487)	(△112,160)	
短期借入金	0	54,720	△54,720	
未払金	254,625	335,266	△80,641	
前受金	3,882,612	3,890,073	△7,461	
預り金	282,090	251,428	30,662	
負債の部合計	6,368,451	6,511,057	△142,606	

純資産の部				(単位：千円)
科目	本年度末	前年度末	増減	
基本金	(66,908,159)	(66,907,626)	(533)	
第1号基本金	59,035,922	59,035,922	0	⑦
第2号基本金	7,019,624	7,019,624	0	
第3号基本金	372,613	372,080	533	
第4号基本金	480,000	480,000	0	
繰越収支差額	(△2,085,213)	(△3,399,526)	(1,314,313)	
翌年度繰越収支差額	△2,085,213	△3,399,526	1,314,313	
純資産の部合計	64,822,946	63,508,100	1,314,846	
負債及び純資産の部合計	71,191,397	70,019,157	1,172,240	
減価償却額の累計額	24,038,755	22,929,312	1,109,443	
基本金未組入額	39,431	0	39,431	

- ①キャンパス内各棟トイレ・教室改修、美術館火災受信機盤更新他。
 ②教学システムサーバー機器、3Dプリンター、3Dスキャナー、iMac他。
 ③室越健康絵画作品4点、米谷清和絵画作品12点、安倍千隆彫刻作品10点。
 ④第3号基本金引当特定資産は寄付金による基本金増により53万円の増加。減価償却引当特定資産残高は10億円増額し83億円。退職給与引当特定資産残高は退職給与引当金が減少したことから3,044万円減の19億4,912万円。多摩美術大学創立80周年記念奨学基金引当特定資産残高は奨学金給付による取崩し930万円と寄付金及び利付国債による運用益226万円との差額704万円の減少。保有の有価証券は、引当特定資産分を含め45億3,000万円(平成31年3月末現在の取得価額に対する評価はプラス2億254万円)で10億円の増加。
 ⑤現金預金残高は10億392万円増加し155億5,728万円、未収入金残高は退職金財団交付金等の未収入金が9,608万円増加し3億288万円、前払金残高は67万円減少し5,685万円。
 ⑥退職給与引当金残高は301名分で3,044万円減の19億4,912万円。
 ⑦第1号基本金＝平成30年度の組入額(資産取得)4億5,093万円と当年度除却資産の基本金組入額2億3,863万円との未払金3,942万円を除いた差額1億7,288万円は教育研究用機器備品の繰延精算となり、組入高はありませんでした。

4. 財務比率(平成28年度から平成30年度)

項目	算式	評価	平成28年度	平成29年度	平成30年度	芸術系平均値
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	47.7%	44.5%	45.7%	55.8%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	▼	55.7%	51.2%	52.9%	71.2%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	4.4%	4.6%	4.7%	11.6%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	▼	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%
事業活動支出比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}}$	▼	89.7%	85.4%	85.2%	101.3%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	▼	90.5%	86.0%	85.2%	114.4%
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	80.0%	78.8%	77.6%	87.1%

- 【比率分析の見方】
 ◎人件費比率＝経常収入に対する人件費割合を示す重要な比率で低い方が望ましい。
 ◎人件費依存率＝学生生徒等納付金に対する人件費割合で一般的には低い方が望ましい。
 ◎管理経費比率＝経常収入に対する管理経費の割合で低い方が良い。本学では特に節減に力を入れている。
 ◎借入金等利息比率＝経常収入に対する借入金等利息の割合で低い方が良い。本学は八王子キャンパス整備の借入金により比率が高かったが返済が進み平均値を下回った。
 ◎事業活動支出比率＝人件費や管理経費、教育研究経費などで消費された比率で、低いほど安定し自己資金は充実する。
 ◎基本金組入後収支比率＝「事業活動収入－基本金組入額」に対する事業活動支出の割合で低い方が良い。
 ◎固定資産構成比率＝総資産に占める固定資産の割合で低い方が良い。比率が特に高い場合は流動性に欠ける。

※芸術系平均値は、日本私立学校振興・共済事業団【今日の私学財政】平成30年度版より算出しました。△…高い方が良い ▼…低い方が良い ―…どちらとも言えない

項目	算式	評価	平成28年度	平成29年度	平成30年度	芸術系平均値
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼				

「第67回朝日広告賞」で最高賞など8名受賞の快挙!

朝日新聞社が主催する「第67回朝日広告賞」で、8名の学生が受賞しました。最高賞を受賞したのは、グラフィックデザイン4年・長岡華子さん。また、同3年・滝沢奈津子さんが準朝日広告賞を受賞、同3年・宮田柊花さん、三好百花さんが入選し、同3年・光島瑠菜さんが審査委員賞、同3年・小芦茉帆さん、塚原菜緒さん、水上雄太さんが学生奨励賞を受賞と、多くの学生が賞を手に入れました。朝日広告賞は1952年に創設され、各時代のすぐれた新聞広告を顕彰し、広告文化の発展に寄与してきた賞です。今回、パナソニックによる課題を扱った長岡さんの作品は、若きクリエイターが腕を競う「一般公募の部」で、学生の応募者数が昨年に続き多かったという応募総数1724点の中から見事、最高賞に選ばれました。



長岡華子
「パナソニックによる課題(乾電池エボルタNEO)」



滝沢奈津子
「カマヤマによる課題(ローソク・キャンドル)」

「国際ガラス展・金沢2019」で大賞など5名受賞

“世界のガラス・シーンの今を展望する”と評される「国際ガラス展・金沢」。第14回を迎える今回は、日本を含め39の国と地域から357名の応募があり、12年工芸卒業・津守秀憲さんが大賞、19年工芸卒業・竹岡健輔さんと工芸助手・横山翔平さんが銀賞、19年工芸卒業・若色正太さんと09年大学院博士後期修了・ジョンヨンギョンさんが奨励賞を受賞しました。本展は、石川県や金沢市、石川県デザインセンターなどで構成される国際ガラス展・金沢開催委員会が主催する、世界有数のガラスの国際公募展です。



津守秀憲「胎動'19-3」

トピックス

卒業生のデザインがパラリンピックのメダルに採用

14年グラフィックデザイン卒業・松本早紀子さんのデザインしたメダルが、東京2020パラリンピックに採用されました。「扇」をモチーフとしたデザインで、「人種や国境を越えて人々の心をつなぐ」「世界に新たな風を吹き込む」というイメージを象徴。また自然の生命力を表すため、扇の骨にあたる部分に岩・花・木・葉・水のデザインがあしらわれています。扇を束ねる“要”がアスリートの姿とも重なるデザインです。

八王子キャンパス学生寮(仮称)起工式を挙行

9月12日、八王子キャンパス学生寮(仮称)の起工式が執り行われ、理事長、学長らが出席し、工事の安全を祈願しました。学生寮は彫刻棟群の裏手、約11642平方メートルの広い敷地に建てられ、地上5階建て、全190室を有する建物となる予定です。20年11月に竣工、学生の入寮は翌21年4月を予定しています。



NHKの番組『おはよう日本』に環境デザインの学生が出演

7月25日、NHKの番組『おはよう日本』内、朝7時台の

特集枠「クローズアップ」で、環境デザインの学生が出演し、オリンピックの暑さ対策として、競技場周辺の「ひと涼みスポット」を開拓している様子が紹介されました。また、東京メトロの駅で配布されているフリーペーパー「メトロミニッツ[Metro min.]VOL.200」に、環境デザイン・堀内正弘教授のクールシェアの記事が掲載されました。さらにこの取り組みは、シンガポールのテレビ局「チャンネル8」からも取材を受け8月に放送されるなど、大きな反響を呼んでいます。

米津玄師さんバージョン「パプリカ」卒業生がMVのアニメーションを担当

NHK『みんなのうた』で、子どもたちに大人気の楽曲「パプリカ」。その新バージョンとして、作詞・作曲を手がけた米津玄師さんによるセルフカバーが放送されました。この曲のアニメーション映像を04年グラフィックデザイン卒業・加藤隆さんが担当しています。



洗足学園音楽大学とコラボレーションオペラを上演

演劇舞踊デザイン学科 劇場美術デザインコース3年次の、舞台美術ゼミ・照明ゼミ・衣裳ゼミと洗足学園音楽大学声楽コースオペラ実習の学生のコラボレーションオペラが8月2～4日、上野毛キャンパスで上演されました。16年度『コジ・ファン・トゥッテ』、17

年度『ヘンゼルとグレーテル』、18年度『魔笛』に続き、4回目の今年は初年度と同じくモーツァルト作曲『コジ・ファン・トゥッテ』を新たな演出で上演しました。



「昭和大学 富士吉田の天然水」の新ラベルを学生がデザイン

包括連携協定を結んでいる昭和大学ブランドのナチュラルミネラルウォーター「昭和大学 富士吉田の天然水」のリニューアルに伴い、本学の学生を対象にした新ラベルデザインコンテストが実施されました。40点を超える応募の中からグランプリに選出されたのは、統合デザイン3年・伊藤彩希さん。ほか大学院生2名、美術学部の学生5名の計7名が佳作に選ばれました。グランプリ作品は実際に商品化し、販売もされています。



グランプリに選ばれた伊藤さん(左)と片桐敬昭和大学名誉学長(昭友商事代表取締役/右)

リンレイと共同して新宿中央公園のトイレを一新

本学とリンレイが共同でトイレをリデザインするプロジェクト「日本のキレイ&TOKYO リンレイトイレ」。2年目となる今年度は、8月に区立新宿中央公園の2カ所のトイレ(水の広場トイレ・ちびっこ広場トイレ)の外装・内装のデザインを一新しました。本学のプロジェクトメンバーも新しくなり、水の広場は学生自ら筆を用いて描いた「鳥獣戯画」、ちびっこ広場はモコモコとした洗剤の泡をキャラクター化した「アワーズ」をコンセプトに掲げ、デザイン制作を行いました。



タマビ助手展 2019 [poly-] 開催

7月20日～8月3日、本学に助手として所属する作家による展覧会「タマビ助手展 2019 [poly-]」が八王子キャンパスにて開催されました。2回目となる今回は、絵画・彫刻に加え、メディア芸術や工芸、環境デザインなどの研究室助手も参加し、より多様な展示内容となりました。また、版画/彫刻/メディア芸術・開発好明非常勤講師、メディア芸術・谷口暁彦講師のクロストークも行われ、盛況のうちに終了しました。



受賞

「シェル美術賞 レジデンス支援プログラム 2019」対象作家に卒業生が選出

13年油画卒業・武田竜真さんが、シェル美術賞の過去の受賞・入選作家のキャリア支援を目的とする「シェル美術賞 レジデンス支援プログラム2019」の対象作家に選ばれました。武田さんは19年12月～20年1月の期間、パリに滞在して他作家との交流や制作活動などに取り組み、現地で作品展示を行う予定です。また、「シェル美術賞アーティスト・セレクション2019」には、03年日本画卒業・江川純太さんが選ばれました。



武田竜真『オールドフューチャー』(2012年入選作品)

「Artists in FAS 2019」入選アーティスト発表

アーティストに制作の場と発表の機会を提供することを目的に、藤沢市アートスペースが主催し、今回で4回目の「Artists in FAS 2019」で、18年彫刻卒業・下大沢駿さんが入選しました。入選者は藤沢市ア

トスペースのオープンスタジオで7～9月に滞在制作を行い、9～11月の展覧会で作品を発表しています。

「IAG AWARDS 2019」で卒業生が受賞

池袋の地域ぐるみの展覧会「池袋モンパルナス回遊美術館」のメイン企画として開催された「IAG AWARDS 2019」。400名を超える応募者の中から、本学の学生や卒業生7名が入選し、うち19年メディア芸術卒業・油原和記さんが奨励賞、09年大学院油画修了・三村梓さんがKAYOKOYUKI賞とギャラリー路草賞、18年油画卒業・山中春海さんがTALION GALLERY奨励賞を受賞しました。5月には東京芸術劇場にて、入選作家による展覧会も行われました。



油原和記「MOWB」

『社会を変える「夢のゲーム」研究アイデア』の募集で学生が優秀賞受賞

公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団主催『社会を変える「夢のゲーム」研究アイデア』第6回公募の結果が発表され、小学生から社会人まで252件の応募の中から、芸術3年・門脇咲和さんの作品『みんなの冷蔵庫』が優秀賞に選ばれました。この公募は、ゲームの面白さや手法を使い、さまざまな社会的課題の解決をテーマとするものです。

「2019金沢・世界工芸コンペティション」で卒業生が島敦彦審査員特別賞を受賞

「第4回金沢・世界工芸トリエンナーレ 2019金沢・世界工芸コンペティション」において、97年クラフトデザイン卒業・大槻洋介さんの作品『現在と過去の間』が島敦彦審査員特別賞を受賞しました。入賞作品は11月10～21日の期間、金沢21世紀美術館にて展示されます。

人事異動

新規採用

総務部情報推進課 渡部和佳子 常勤嘱託 (2019年5月1日付)
総務部総務課 瀬良裕治 主事 (2019年6月1日付)

学長補佐

小泉俊己
安次富隆

事務局長

安楽康彦

(以上、2019年6月1日付)

附属美術館長

建昌哲

キャンパス設計室長

田淵諭

(以上、2019年9月1日付)

研究活動

2019年度科学研究費助成事業 採択者

科学研究費助成事業は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる学術研究を格段に発展させることを目的とする競争的研究資金であり、ピアレビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成が行われます。

●基盤研究(B)(一般)

楠房子教授(情報デザイン学科)
ユニバーサルデザインに基づいたデジタル人形劇の開発と実践

植村朋弘教授(情報デザイン学科)

幼児のアートの思考を伴うプロジェクト活動における学びの変容を可視化する実証的研究

●基盤研究(C)(一般)

久保田晃弘教授(情報デザイン学科)

軌道上展開構造物による衛星彫刻の実現

平出隆教授(芸術学科)

河原温の秘匿された「生涯と制作」の解明

高梨美穂准教授(共通教育)

直示動詞「行く」「来る」の母語習得に関する研究
佐賀一郎准教授(グラフィックデザイン学科)

美術一デザイン史概念を共有・育成するデザインアーカイブ群の構築

鶴岡真弓教授(芸術学科)

エルミタージュ美術館所蔵「黄金の鹿」の神話と造形表象―「生命再生の鹿角」の研究

大島徹也准教授(芸術学科)

もう一つの抽象表現主義史―抽象表現主義者たちの自主的集団活動についての考察

深津裕子教授(共通教育)

西表島の衣文化資源を基盤としたサステナブルデザインとエコツーリズムへの展開

松田嘉子教授(共通教育)

アラブ古典音楽のタクスイーム(即興演奏)におけるマカーム(旋法)の構造

木下京子教授(共通教育)

近世杉戸絵に関わる総合的研究
菅俊一講師(統合デザイン学科)

手がかりの提示による空間における身体誘導のための新しいメディア表現方法論の研究

●若手研究

中嶋英樹講師(共通教育)

1880年代から1920年代の英国小説における「散漫な注意」の技法

堤涼子助手(大学院美術研究科)

住まいの屋外空間における生活者によるデザインの美態とプロセスの研究

陳瓦宇助手(大学院美術研究科)

近代日本画における画紙の特質による技法の展開

研究成果公開促進費

【研究成果公開発表(B)(ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI)】

科学研究費助成事業の研究成果について、直に見る、聞く、触れることで、科学の面白さを感じてもらおう小・中・高校生のためのプログラムです。

高梨美穂准教授(共通教育)

成長することば―ことばを学んで、オリジナル絵本・小冊子を作ってみよう!

伊集院清一教授(共通教育)

アートセラピー入門:
アートで心がわかつちゃう!?～芸術と医療の融合～

多摩美術大学美術館

多摩市落合1-33-1 | 10:00~18:00 | 火曜休館 | 大人=300円 / 大学・高校生=200円
(本学学生および教職員は無料、卒業生も校友金カードの提示により無料)



10月26日[土]~11月24日[日]

野口裕史退職記念展 —多摩美術大学金属工芸40年

金属工芸の分野における鍛金の可能性に挑む工芸・野口裕史教授の業績を総覧し、教育者として歩んできた40年間の軌跡を紹介する。本展では、野口教授が確立した鍛金技法による代表作《天空伝説》シリーズをはじめとして、精妙なる作品の数々を紹介。さらに、ともに金属工芸の分野を開拓してきた同僚や、卒業生たちの作品も展示する。

野口裕史によるギャラリートーク
11月17日[日] 14:00~15:00

アートテーク



八王子キャンパスの中心に位置する、知と創造の多面的複合施設 アートテーク (Art-Theque) は2015年、旧図書館跡地に建設された施設です。ギャラリー、自由デッサン室(石膏室)、大学院博士後期課程アトリエ、アートアーカイブセンター、収蔵庫などで構成されています。
八王子キャンパス内 | ギャラリー開館時間10:00~18:00 | 日曜・祝日休館 | 入館無料

以下は、ギャラリーで開催予定の展覧会です。

横山操資料展 11月9日[土]~15日[金]
多摩美術大学共同研究の成果報告展

「TAMA VIVANT II 2019 ART・漂う場所として」展 11月11日[月]~19日[火]
芸術・海老塚耕一教授担当のカリキュラム履修生による成果展 ※10:00~19:00

「文様とアジアの群像」展 11月20日[水]~22日[金]
多摩美術大学共同研究+私学振興研究成果発表展

「&山形季央展」 12月3日[火]~21日[土]
グラフィックデザイン・山形季央教授の退職記念展。
「多摩美術大学・ウィーン応用美術大学学生による制作交流展」も同時開催。

第2回多摩美術大学アートアーカイブシンポジウム

「アートアーカイブとは何か」 12月7日[土] 10:00~17:00 レクチャーホールBホール

2019年3月の第1回での議論を出発点に、今回は「アートアーカイブの現状」「写真アーカイブのこれから」「言語と美術のアーカイブ化」という3つの方向からアートアーカイブの可能性を展開します。さらにアートテークと図書館で展覧会が同時開催されることで、アーカイブとギャラリーが連動した、新しい体験と議論の場をつくりだすことを試みます。詳しくは大学HPアクティビティニュースをご覧ください。

アートテーク関連展示

「河原温 LANGUAGE and ART ブックアート・コレクション創設記念展」
12月4日[水]~7日[土]

展覧会・公演

グラフィックデザイン | 上田義彦 教授ほか
風景の科学 展 芸術と科学の融合
9月10日[火]~12月1日[日]
国立科学博物館

大学院 | 横尾忠則 客員教授
横尾忠則 自我自損展
9月14日[土]~12月22日[日]
横尾忠則現代美術館

彫刻 | 中谷ミチコ 講師ほか

凹凸に降る
—ミュージゼ浜口陽三・ヤマサコレクション 2019年冬の企画展—
10月5日[土]~12月22日[日]
ミュージゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

アキバタマビ21



タマビが運営する新しい創造の場 3331 Arts Chiyoda内にあるアキバタマビ21は、若いアーティストたちが展覧会を行うスペースです。卒業後のキャリア形成支援を目的としており、企画から広報物・アーカイブ作成まで自ら手がける企画展を、年間約8回開催しています。
千代田区外神田6-11-14 3331 Arts Chiyoda 201・202 | 12:00~19:00(金・土は20:00まで) | 火曜休場 | 入場無料



10月26日[土]~12月1日[日]

第80回展「Story Teller — 物語を紡ぐ」

絵画、版画、インスタレーションなどさまざまな方法で「物語」を表現する。

出品作家=秋山佳奈子、河野愛、野田琢、パレリー・サイポーズ、山本麻紀子

レクチャーシリーズ02「海外のアートシーン紹介(仮)」
11月6日[水] 17:00~ 講師=松原志志朗、首藤スター直樹

ギャラリートーク
11月10日[日] 14:00~15:30 ゲスト=山下彩華(キュレーター)

アーケードギャラリー

八王子キャンパス図書館内 | 展示時間 9:00~20:00(土・短縮開館日は16:30まで) | 日曜休館 | 入場無料

地震ポスター支援プロジェクト・イラストレーションポスター展 10月21日[月]~11月13日[水]

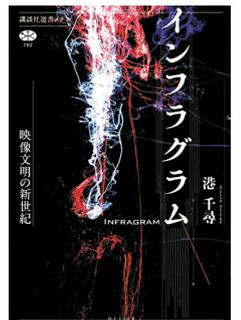
「第67回 朝日広告賞」入賞作品展 11月19日[火]~29日[金] ※23日[土・祝]休館

新刊



上手な心の守り方
不安、悩み、怒りを
こじらせない、99のヒント
枙野俊明 著
(環境デザイン | 教授)
三笠書房 | 3月20日刊 | 680円+税

インフラグラム
映像文明の新世紀
港千尋 著
(メディア芸術 | 教授)
講談社 | 5月11日刊 | 1,700円+税



暴力と輝き《人類学の転回》
アルフォンソ・リンギス 著
金子遊 訳ほか
(芸術 | 准教授)
水声社 | 5月24日刊 | 3,200円+税

友愛のひそかな魔法
ドナルド・エヴァンス 著
平出隆 著 (芸術 | 教授)
via wwalnuts
5月31日刊 | 777円



七十人訳ギリシア語聖書 列王記
秦剛平 訳(名誉教授)
青土社 | 6月22日刊 | 4,600円+税

世界チャンピオンの紙飛行機ブック
久保田晃弘 監訳ほか
(メディア芸術 | 教授)
オライリー・ジャパン
8月7日刊 | 2,200円+税



「TAMABI NEWS」では受賞や活動報告を募集しています。総合企画部 (TEL=03-3702-1168 / e-mail=news@tamabi.ac.jp) までお知らせください。



最新情報は www.tamabi.ac.jp をご覧ください

多摩美術大学 広報「TAMABI NEWS」2019年10月31日発行 第28巻 第3号 通巻83号
発行=多摩美術大学 東京都世田谷区上野毛3-15-34 電話=03-3702-1141(代表) 編集=総合企画部 デザイン=村松丈彦

